



第56号 Forward

編集責任者
沖縄尚学高校
PTA文化教養部
那覇市国場747
☎ 832-1767
FAX 834-2037
発行 (株)尚生堂
令和2年2月7日

暖かみ・厳しさ・知性

沖縄尚学高等学校PTA新聞 感謝と奉仕

E-mail query@okisho.ed.jp

HPURL http://www.okisho.ed.jp

理事長に聞く我が校の歩み

第二話 「その人の生活があるから生活が成り立つようにしてあげないといけない。」



名城 政次郎
理事長・高校校長

今だったら考えるだけで眠れなくなりますよ。

ひとつ覚えていてほしいのは、それまで積み上げてきたものの全部でやるしかない、ということ。片足で入るようではない。とことんやる。名前も沖縄尚学院高校としました(当時)。「尚学院」と入れたのは、尚学院は本気でですよ、ということを示すためです。

引き受けの返事をしたのが昭和五十七年十二月二十七日。試験は二月にやるので、残りは二カ月足らずです。引き受けと募集開始について発表を行ったところ、案の定、問い合わせの電話が何十本もありました。「本気でしょ、うね、二〜三年で辞めるんじゃないでしょうね。」私は答えました。「辞めませんよ。名前にも尚学院と入れています。とことんやりますから。」そうしたら、二百名の募集に受験者が三百名以上ありました。

外間…信じられないほどの信頼感ですね。もうひとつお聞きしたいことがあります。引き受けの際に首切りをしなかったことが有名ですが、なぜそのような決断ができたのでしょうか。現代なら当然、在籍していた職員をリストラし、尚学院の先生で教えればよいとなる。そうした意見もあったのではないですか。

もちろんありました。それに最初は、四十名は引き取っていただくあてがある、という話だったんです。ところが、この話は無かったことになりました。「そういう約束はしてません、先生の方で全部面倒を見てください」と。それでも、そう言ったときに、この人たちは辞めさせるといことは、生活できない人が出るということです。理想を言えば変えたいこともたくさんありましたが、しかたがない。引き受けるしかありませんでした。担任をお願いして、受験指導は尚学院の先生にやってもらうことにしました。当時は苦しい状況が続きましたが、それでも昭和五十八年四月に引き受けて以来、一度も給料やボーナスの欠配をせずにやって来ることができましたよ。



開き手
外間政一郎
(2の3保護者)
(S58～S61尚学院在籍)
内科医

活躍するOG No.6 図書館に感謝



株式会社スタイル
代表取締役
PRプランナー
吉戸 三貴

「パリ留学が人生の転機です」。これまで、雑誌や新聞のインタビューで何度もそう答えてきました。小さい頃から極度の人見知りだった私がPRの世界に入ったキッカケは、フランスで住宅トラブルに巻き込まれ、さまざまな交渉の中でコミュニケーションの大切さを実感したことでした。

二十代後半で人材育成の奨学金を得てパリに行けたのは、沖尚中高時代に数えきれないほど本を読んでいたおかげです。外国語の面接で「好きな本は？」と聞かれた私は、とっさにタイトルをフランス語で「愛と死(ラモールエラモール)」と答えました。武者小路実篤の名前の長さ(一)にも助けられ、「作者は、ムッシュ・サネアツ・ムシヤノコジです。スベルは……」とゆくり話すうちに時間いっぱい。当時ほとんど話せなかったフランス語の面接をどうにか突破できました。

あのとき本のタイトルが浮かばなかったら、海外で暮らすことも、天職と思えるPRの仕事に出会うこともなかったでしょう。図書館に通いつめて身につけた読書習慣が新しい扉を開いてくれたのです。もし、今の十代の頃の自分に会えるなら、人生の収支は学生時代だけではわからないと伝えたいと思います。学んだことや人との出会いが財産だとわかるのが、何年、何十年先ということもあるから焦らなくても大丈夫だよ。

勉強する意味がわからなくなったり人間関係で悩んだりしたら、こんな風に考えてみませんか。あ、これって将来役に立つかもしれない。ノーベル賞をとって、昔から化学の勉強が好きだったとスピーチをするかもしれない。ドキュメンタリー番組の密着取材で、学生時代の失敗談を語る時がくるかもしれない。いつかやってくる「そのとき」のために準備をしていると考えたら、少しだけ気持ちが軽くなりませんか。

私も、次のインタビューではこう答えてみようかな。「沖尚の図書館と、武者小路実篤のおかげで今の私があります。」人生の新しい扉を開く鍵は、意外なところに落ちているものです。

プロフィール

吉戸三貴 (よこどみき)

株式会社スタイル代表取締役 / PRプランナー
慶應大学卒。日本初の広報情報学修士号をもつPRの専門家。
パリ県費留学、沖縄美ら海水族館広報、東京のPR会社をへて起業。東京・沖縄を拠点に全国でコンサルティングや講演、執筆を行う。著書『内地の歩き方』ほか

グローバル基礎力

多様性と統一性をバランスさせる力



高校副校長
博士(教育)
名城 政一郎

度もよろしく申し上げます。

さて、昨年の十二月に恒例の空手演武会が行われました。数ある沖尚の学校行事の中で、沖尚の目指す「自己実現力」と「社会貢献力」がはっきりと表れる「勝負の場」であり、また、沖尚生の帰属意識の強さが伝わってくる、まさに「人間力」が披露される場と言っても良いでしょう。

「二人一人がチームのベクトルを共有し、今の自分のベストを出し切る」とどのような結果になるか。沖尚生の演武はまさにそのお手本のようでした。そう、「自分も人も幸せにする」演武会でした。上海からお見えになっていた孫理事長も、琉銀や沖銀の支店長の方々も、来賓の先生方全員が感激しておられました。これは沖縄伝統空手の持つグローバルな文化力と、一人一人、身体能力も個性も異なる「多様な」生徒たちが、同じ「形」プリンシプルを演武することによって顕在化させた、「多様性と統一性の高度なバランス」のなせる業だと思えます。沖尚生の皆さんも、そして私たち大人も「ベクトルの方向を共有して今の自分のベストを出し切る」を他の取り組みにも応用し、どこでどんな場面でも必要な時には実践できるようにならねばと思います。これが、自分も人も幸せにする「グローバル基礎力」です。

さて、高三生の沖縄尚学での高校生活も残りわずかとなりました。三学年主任の下里先生が、ときどき、副理事長室にやってきて、今年の三年生が全員一丸となって目標大学合格に頑張っていることを「誇らしげに」報告してくれます。頼もしく思います。

三年生の皆さんには、「目標大学現役合格率八十%以上」というベクトルを全員で共有し、この目標に少しでも近づけるよう、あるいは超えられるよう、一日一日を勝負の場ととらえ「真摯に」真剣に「取り組むよう伝えました。毎日「これが今の自分のベストです」といえるよう頑張ってくれているものと確信しています。高三の保護者の皆さん、三年間どうもありがとうございました。

新任自己紹介



大城 与志仁
(理科)

初めましての方も、初めましてでない方も、こんにちは。高校で生物を担当しております、大城与志仁(よしと)です。

中学・高校では勉強に苦しみ、学校の先生

にも、塾の先生にも笑われてきました。だからこそ、絶対に生徒を見捨てない大人になろうと思って、先生をしています。

出身大学は、日本一、変人の多い京都大学です。私もその例に漏れぬよう、がんばっていく所存です。みなさん、よろしくお願いします。



高嶺 朝太
(英語科・広報)

今学期から沖縄尚学の英語科、広報、異文化交流プログラムに所属している高嶺朝太です。本校卒業生です。私立サンフランシスコ大学を卒業、翻訳者、フリーランスのジャーナリスト、琉球新報社記者を経て本校で8月25日から勤務しております。

私が在学していたころとの違いに驚いております。私が誤解しているかもしれませんが、成

績評価絶対主義から、多様性のある学校に変わったというイメージを抱きました。空手など伝統文化の修得や多彩なボランティア活動に感銘を受けました。

生徒を引率して県外のイベントに参加する機会もありました。各クラスの授業も参観しました。生徒たちの能力の高さと物怖じしない姿にうらやましく思いました。日本だけでなく、米国など海外の大学へ進学しても彼らは十分にやっていけるでしょう。沖尚が、世界に通用するグローバル教養人の育成に取り組んでいる中、そのチームの一員として働けることに充実感を感じている毎日です。

盛岡CHUO国際教育フォーラム 国家間の対立は教育交流に影響せず

八月二十五日から九月一日まで、岩手県盛岡市で、盛岡中央高校主催の第二十一回CHUO国際教育フォーラムが開催され、世界各国地域から多くの教員と生徒が参加し、交流を深めました。

フォーラムに参加にできたことは、私にとって素晴らしい経験となりました。印象に残ったことは、現在の政治的対立にもかかわらず、日本、韓国、中国、台湾の教師と一緒に協力したことです。韓国からフォーラムに参加した九十歳を超える教員は開会式で、「最近の日韓の政治的対立があるからこそ、フォーラムに参加しようと思った」と語りました。

また、中国人の教員が歓迎会場で、英語で祝辞を述べるのに苦労している際、台湾人の教員が通訳を買って出しました。

フォーラムの最終日には、様々な国々の生徒が、高齢化社会、女性の地位向上、子どもの貧困問題などについて素晴らしいプレゼンテーションを行い、最後のパーティーでは、みんな一緒になってニュージーランドの先住民族マオリ族の踊りを披露しました。

このような光景をみて、私は、国際的な政治的緊張に関わらず、教育交流が子ども達の将来にとって希望をもたらすものであると実感しました。

高嶺 朝太（英語科・広報）



第21回識名園友遊会に参加して



2年 地域研究部
小渡 立雅

僕は今回、国場地区の伝統芸能「ウズンビーラ」を地域研究部のメンバーと一緒に練習し、披露することで、とても良い経験が出来ました。

まず、僕達が初めて「ウズンビーラ」を披露したのは、10月20日に那覇市民体育館で行われた「TSUNAGU」というイベントです。それは那覇市の伝統芸能を絶やさず、若い世代に繋いでいこうというコンセプトのイベントです。また、11月17日には世界文化遺産の識名園でのイベント「友遊会」でも披露させていただきました。

この2つのイベントに向けて、昔の人々の想いを胸に、力強い動きで迫力がある演舞をしようと頑張ってきました。そして本番では、多くの人から大きな拍手をいただいたので僕達の努力が実ったような気がしました。「ウズンビーラ」を通して、僕達の演舞が地域を活性化させ、伝統芸能を次の世代に知ってもらい、伝える責任を果たすことが出来たと思うと嬉しいです。

今回は、たくさんの地域の方々に手厚くサポートしていただき、一体感、優しさ、温かさを感じることが出来て、2つのイベントが終わった後は達成感でいっぱいでした。関係者のみなさんや「ウズンビーラ」を指導してくださった国場のみなさんにはとても感謝しています。ありがとうございました。

人々を楽しませ、地域を活気づける



(国語科・地域研究部顧問)
鏑 武彦

11月17日(日)に識名園友遊会が開催されました。識名園友遊会は、毎年11月に開催される、伝統芸能の継承・青少年の健全育成等を目的としたお祭りです。その演舞発表の場で、本校地域研究部の生徒が「字国場のウズンビーラ」を披露しました。

「字国場のウズンビーラ」は、本校が所在する国場地域の伝統芸能で、那覇市指定無形民俗文化財にも指定されております。その発祥は、琉球王国時代に国王の御前で集落ごとに田畑を耕す勝負を行い、勝利を収めた人々がカチャーシーを踊りながら国場まで帰ってきた様子を芸能化したものと言われています。

本校地域研究部の生徒たちは、国場民俗芸能保存会の指導のもと、「字国場のウズンビーラ」を代々継承しております。

当日は多くの観客の見守る中、時に力強く、時に楽しげに、勇壮な演舞を行いました。



第29回 九州地区高等学校英語スピーチコンテストに優勝して



2年10組
張 博瀚

はじめに、今回のスピーチコンテストで優勝した事に対して、熱烈に指導して下さいました先生方に心から感謝を伝えたい。

私は野球をする為に沖縄に来た。入学直後は、日本語が全く分からなくて、授業中でも部活中でも、先生が何を伝えたいのか全然理解出来なかった。言語や習慣の違いもあって、色々な困難にぶつかりながら野球の練習を一生懸命やって来た。比嘉先生と伊志嶺先生の言葉「成長する為に技術を鍛えるだけではなく、心も鍛えないと成長はしない」を目標にずっと練習して来たので、選手としてだけでなく、人間としても凄く成長ができたと思う。

三年生になり、最後の夏に向けて部員一丸となって練習に励んでいる。実力主義の高校野球でレギュラーになれるのは20名しかいないのが現実だ。レギュラーになれるかどうかに関わらず、チームの一員として絶対貢献できる！という気持ちで最後までやり切りたいと思っている。

終わりに、座右の銘を「日英中」語で紹介したい。

楽な道を行くな。無理にでも挑戦し続けろ。最初は大変かもしれないが、あなたの予想を上回る力が発揮されるだろう。

Don't take the easy path. Force yourself to face greater challenges. It will be hard at the beginning, but it will empower you in ways you did not expect. Your life begins at the end of your comfort zone.

面臨抉擇時，不要選簡單的那條路，強迫自己去面對充滿困難的那條，可能一開始會非常辛苦，但當你撐過了，就連自己的成長幅度也會超越自己所預期的。

オープンキャンパス

9月29日(日)

PTA 活動の大きな役割の一つにオープンキャンパスのお手伝いがあります。

緑のPTA Tシャツを着た役員一同は、来場者に楽しく過ごして頂けるように色々工夫を凝らして活動しています。特に駐車場の誘導ですが、事前に近隣のお宅一軒一軒にポスティングをしてまわり、ご理解を得ることで、混乱を防ぐことが出来ました。

PTA バザーや喫茶室の売上金は、これまで主に派遣費に使われていましたが、今年度は、昨年度の売上金の一部を、すべての生徒に還元出来るようにと話し合い、大型扇風機や、スリッパを購入しました。今後も生徒のために用途を検討する予定です。

(名幸 万里子)

※各部の役割

- 総務部・・・PTA バザーの運営、
焼き芋販売
- 文化教養部・・・喫茶室の運営
- 施設部・・・受付
- 保健体育部・・・休憩室の運営
- 生徒指導部・・・校内巡視、駐車場誘導
- 部活保護者会・・・沖尚タオル、
Tシャツ販売

第45回

沖縄県高等学校PTA研究大会



副会長
名幸 万里子

季節外れの台風が心配された中、天気恵まれ、11月23日(土)に沖縄大学と本校を会場に開催されました。

今回は那覇地区開催ということで、本校が会場に決まってから、実行委員長の樋口会長を中心に、本校からは石井教頭、PTA事務の神谷さんも参加し、各校の実行委員と何度も会議を重ねました。より良い大会にするために、夜遅くまで話し合いが終わらないことが多々ありました。

PTAの研究大会と言えば、会場の手配の都合上、分科会と全大会の会場が離れてしまうことが常でしたが、今回は移動することになったので、分科会に参加された方の大多数が全大会にも参加されました。沖尚の役員は緑のTシャツを着て案内係として参加者を誘導しました。全県から600名以上参加頂きましたが、混乱することなく会場に入ることが出来ました。

分科会では各校の実践発表があり、私は全大会での九州大学の比良松道一准教授の記念講演にもっとも感銘を受けました。演題は「自分で作ってつながる絆、育つ心〜だから「自炊」なんだ!」です。

驚愕したのは、大学生の食生活の調査結果です。朝お菓子、昼学食、夜インスタント食品。びっくりするほどの貧しい食生活は、お金の問題ではなく、食に関する意識がとても低いことが原因でした。そこで「自炊塾」という講義を始めたら、学生が、ほんの3か月で劇的な変化を遂げたそうです。一度も料理をしたことがなかった学生が、自分で作る楽しみを知り、人に食べてもらう喜び、食事の大切さに気付く。更に、親や、食材を作る人に感謝する気持ちが芽生え、そこから派生して周囲のことに目を向けることが出来るようになったといいます。日々の生活の中で、私たち親が、「生きるためには食べること」、つまり食事の大切さ子供に伝えることが必要だと思いました。

準備の段階から参加した今大会ですが、無事に終わってホッとしたとともに、沖尚PTAの手際の良さと団結力に改めて感動しました。

はなむけの言葉



高三学年主任

下里 健二

卒業生との六年間

ご卒業おめでとうございます。月日がたつのは早いもので、皆さんもいよいよ卒業を迎えます。中学入学の人は六年間、高校入学の人は三年間というつき合いです。皆さんの卒業後は急に淋しくなりそうです。私が、年々老眼がひどくなるのと対照的に、皆さんはこの数年の冲尚生活で日々輝きを増しながら成長し続け、この度、夢へ向かつて旅立っていきます。

私の六年間の思い出として最も印象的なのは中学一年と高校一年です。初めて出会った中学入学式では、まだ小学生の雰囲気が残る幼い感じがしました。入学直後には糸満青少年の家での初めての学年合宿があり、学年・クラスでの交流を持ち、それをきっかけにしてお互いが溶け込みあつてクラスの雰囲気が出るようになりました。新しい仲間が百名以上増えました。高二是、内進生と外進生との交流を深める年でした。入学式の二週間後に渡嘉敷島での二泊三日の学年合宿があり、新しい仲間とコミュニケーションを多くとることができました。また、恒例の球技大会や空手演武大会などの行事を通して、お互いに好影響を与え、学年として更に成長した感じがしました。

次に、この六年間の大きな行事としては、やはり修学旅行と研修旅行です。中三のときの修学旅行で、皆さんが最も楽しみにしていたデイズニールランドは、やはり夢の国でした。皆さんが楽しんでた様子がまだ目に浮かびます。そして高二のときの研修旅行は六コースの中から選択で私はカナダへ行きました。カナダでは大自然の中、

生徒の皆さんは日本と違う景色と文化に触れ存分に楽しんでいました。各コースとも同様であつたことを引率の先生方から聞いています。今後の国際教養人として素晴らしい体験ができたと思います。

卒業間近の現在、高三の皆さんは受験モードであり、受験という大きな壁を乗り越えるために全員が必至になって努力しているその姿を私は誇りに感じています。

高校卒業後は今まで以上に楽しいことも、努力しないといけないこともあると思います。また、これからは自分で自分を律していかなければなりません。本校で学んだことや学習・部活動で頑張った経験はきつとこれから皆さんの助けとなり、また、本校でできた多くの仲間や思い出はきつと皆さんを支えてくれるはずです。仲間を信じて、仲間に信じてもらうための第一歩です。これから仲間を大切に、全力で様々なことに取り組んで下さい。また、皆さんの笑顔は周りの人々だけではなく、皆さん自身も支え向上させてくれますので、いつでも笑顔を忘れずに夢を叶えるための努力を惜しまずに頑張ってください。

卒業後、皆さんの更なる飛躍を祈念しています。改めて、卒業おめでとうございます。

中学教頭
金城 英和

仲間との絆を大切に

卒業おめでとう！振り返ってみればあつという間の六年間あるいは三年間だったのではないのでしょうか。そう感じている人は、冲尚での学生生活が充実していた証拠です。きつと多くの人がそう感じたといえます。

六年前(三年前)、真新しいちやうと大きめの制服を身に着け入学してきた日を覚えていてますか？先生は、すっかり覚えています。中学一年五組の副担任として冲尚に赴任し、君達と同じく冲尚で六年間を過ご

してきました。

中学校の時は、宿泊研修、総合学習(おきなわワールド・平和祈念公園)、オーブンキャンパス、球技大会、体育祭、空手演武大会、修学旅行など、高校に入ってから、渡嘉敷研修、遠足、球技大会、体育祭、空手演武大会、高二研修旅行など、様々な学校行事を通して「どうにかする力」「信頼される力」を身につけ、仲間との連帯感を強く育んできたと思います。卒業してから、身に着けたその力と仲間との絆を大切にしてください。

君達は卒業ですが、私はまだまだ卒業せずに冲尚七年目の生活に入っていきます。成長した姿を見せに学校にきてください。いつでも待っています。卒業おめでとう！

高校教頭
石井 淳

銭の言葉

三十五期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。三年間または六年間過ごしたこの学び舎での学園生活はいかがでしたか？自分の目標をしっかりと定めて努力した人のみならず、まだまだ目標をさがしている途中の人も含めて「冲縄尚学」に入学して本当に良かった！と皆さんが思ってくれば幸いです。勿論、高校卒業はゴールではありません。これからそれぞれの道へ進み、いくつもの課題や困難にチャレンジしていかなければなりません。しかし冲縄尚学における「自己実現」と「社会貢献」を育むための経験は確実に皆さんを支え、勝負所で大きな力となることでしょう。自分自身と母校での体験を信じ、これからも果敢に挑戦していく姿勢：これこそが冲縄尚学で培った「どうにかする力」なのではないでしょうか。

皆さんが学校訓である「怖れず、侮らず、気負わず」を心に刻み「グローバル教養人」として成長していくことを心から期待しています。

しています。三十五期生の皆さん、また会いましょう。

高校三年 PTA学年委員長
桃原 奈津子

母校での体験を糧に

高校ご卒業おめでとうございます。

皆さんは今までの冲尚での学校生活を振り返り、たくさんの経験とともに、たくさんの思い出が刻まれているでしょう。初めてできた先輩や後輩と共に戦った部活動、クラス・丸となつて挑んだ空手演武会、様々なボランティア活動への参加など冲尚ならではの活動の中で頑張りを、過ごしてきた学校生活を思い出さずにはないでしょうか。

それが成功であつたり、たとえ失敗であつたとしても、その積み重ねが自分自身の成長へと繋がりが何より冲尚で過ごした証となります。

時に厳しく、時に優しく指導してくださった先生方、そして多くの時間を共に過ごした友達や仲間の存在は、これからの皆さんの糧となり宝になります。

今、皆さんの胸の中には、不安ながらも未来への夢や希望がたくさん詰まっていることと思います。冲尚で得たことを大切に、そして自分が信じる道を楽しく進んで行ってください。

今後の活躍を楽しみにしています。

生徒会会長
比嘉 丈偉

ご卒業おめでとうございます

桜の花が満開の今日このごろ。本日、晴れてこの冲縄尚学高等学校を卒業される三年生の皆さん、本当におめでとうございします。在校生を代表して、心よりお祝い申

し上げます。

先輩方との初めての出会いが私はまだ中学生だった頃、体育祭や球技大会、空手演武大会や地区陸上など沢山ありました。その頃から憧れでし、二緒に活動する時はいつもキラキラしていてかっこいいなと思っていました。特に地区陸上では先輩方の応援が本当に力になりました。

高校に入學してからもう私も私達を勉強面でもスポーツ面でもリードしてくれました。いつも先のことを考え、私達が気付かない所にも気を配り、率先して模範を示してくれました。様々な行事においても団結力も凄くてそんな先輩方のようにになりたい、少しでも近づけるようになりたいと思っていました。これまで成長できたのは先輩方の支えがあったからこそ、感謝の気持ちでいっぱいです。

スポーツ面においても柔道、野球、テニス、長刀など全国レベルで活躍し、沖縄県を代表する選手が大勢いる中で日の丸を背負う先輩もいて本当に誇りに思います。

今、こうして振り返ってみますと、常に私たちの目標であり、心の支えでもありました先輩方が自分の夢のために日々試行錯誤し、努力してこられた姿を、ずっと見てまいりました。これからは先輩方が築き上げてこられた伝統を、私たちが継承していかなければなりません。

一年後には先輩方のように笑顔で卒業できるよう、何事も真剣に、「怖れず・侮らず、気負わず」、努力していきます。

最後になりましたが、今月二十五日から始まる二次試験に向けて全力をあげて立ち向かい、そして、合格の栄冠を勝ち取り、輝かしい未来を切り拓かれることを、後輩一同、この日から祈念しています。

私たちも卒業します



PTA会長
樋口 泰子

エピソード 未来に向けて

穏やかな春の訪れとともに、卒業の節目を迎えることとなりました。長いようで「あつ」という間に過ぎ去った私の子育てに「区切り」が近づいてまいりました。やわらかくて頼りない小さな手が、いつの間にかがっしりと大きな手となり、心も体もすっかり成長して私の元から歩き出す姿は、頼もしくもあり複雑な心境です。

子ども達の学校生活をサポートしたい目的もありましたが、何よりも沖縄の文化や風習がよく分らない自分自身のために始めたPTA活動が、いつしか私の子育てには無くてはならない存在となっていました。

「おギャー」の産声をあげてから高校卒業までの十八年間は、心身が大きな変化を遂げながら多感で傷つきやすく、人生を左右する岐路に立つ時でもあります。

そんな成長変化を見守りながら、親はどうあるべきなのか？迷いながらも子育てをしていく時だからこそ、PTAという運命共同体に身を置いて共に学び、共に笑って泣いて楽しむ経験をするのも大切？よい？なのではないかと思えます。

PTA活動をどう捉えるか？は、人それぞれだと思います。

例えば、世界では多種多様な膨大な情報が高速で行き交っています。

我が子がどんな情報と関わりを持ち、どんな影響を受け、世の中がどう変化していくのか？それを三家庭内で適格に捉えて咀嚼することは容易ではないでしょう。そのような時でも、PTA活動を通して多くの親や先生との交流が大変参考になりました。それを家庭にフィードバックして子

どもと語り合うことも出来たと感じています。

沖尚PTAに携わった十三年間、多くの沖尚改革を目の当たりにする機会も頂きました。ぶれない学校訓に則り伝統を守りながらも、未来を見据えて新しいものを果敢に取り入れる改革の際も、保護者の意見を確認しながら推進に努める先生方との触れ合いもまさにPTA活動であったと思います。

PTA活動に勤しんだ時間は、長い人生の中では僅かですが、沢山の方々との出会いは私の人生を大きく豊かなものにして頂きました。最近、子育てにゴールはあつてないようなものと改めて感じます。子ども達に背中を見せられる大人であり続けるために、少しでも実りある人生を歩むために、これからも学びを続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、本当に長きに渡り数え切れないほどの皆様のご協力、特に陰からの支えを頂きまして幸せなPTA会長でした。

深い感謝の気持ちと共に、最後のご挨拶とさせていただきます。

「ありがとうございました。」



副会長
名幸 万里子

ありがとう樋口会長

中学、高校合わせて八年間も会長を務められました樋口泰子会長ですが、とうとう卒業する時が来てしまいました。沖尚で知らない人はいないのではないかと思います。明るくてパワフルな樋口会長は、いつも笑顔で、PTA活動の先頭に立ちみんなを導いてくれました。常任委員会やPTA総会など、数多くの会議をまとめ、学校とのパイプ役を務め、更には、何かがあればすぐに対応できるようにと、三役とはきめ細やかに連絡を取り合い常に情報の共有をしていました。

これまでの活動で、特筆すべきことは、派遣費造成のタオル販売を始めたことです。オープンキャンパスや行事などで、毎年、色やデザインを変えながら販売を続け、今では五種類のタオルを販売しています。そして今年は生徒会からの要望を受け、Tシャツも作成販売することができました。

会長職は、学内だけの活動にとどまらず、対外的な活動(県や私学)も沢山あり、時間的拘束はかなりのものでした。しかし、本校のみならず、那覇地区、県、九州地区、全国で活躍されました。

私は、樋口会長と六年間共に活動をさせて頂きましたが、行事ごとの挨拶のすばらしさに毎回感動していました。普通なら、大人数の前で話すだけで緊張してしまうのに、いつも原稿を読むことなく、そしてつまるところもなく、希望に満ち溢れた、心に響く言葉を私たちに届けてくれました。

それはきっと、会長の迷いのない、子供や親に対する一貫した信念があつてのことだと思えます。いつも何よりも生徒のことを考え、そして、先生や保護者が無理のないよう楽しく参加できるようにと配慮されていました。それは、会長自身が、共働きで多忙の中、四人の男の子を育て、きちんと家事もこなし、子供に向きあひながら、時間を作ってPTA活動をされていたからだと思えます。そんな樋口会長だからこそ、限られた時間で活動に参加して下さる皆さんと有意義な時間を過ごそうと努力されたのではないのでしょうか。

色々大変なこともありましたが、会長の周りにはいつも笑顔が溢れていました。この度二緒に卒業する私は、これからは樋口会長が築き上げてきた、沖尚PTAが益々魅力的で活発な活動が出来る場になつて欲しいと切に望みます。



桜咲く

センター試験も終わり、二次試験に向けて再度ねじを巻きなおしている生徒が多数いる中、既に栄冠を手にした生徒たちがいます。指定校や公募制、個性や能力、将来の目標などを評価するAO入試などの推薦制度によるものです。AO入試には「一芸一能」というのがあり、大学ごとにさまざま、全国では金魚すくいの実績で有名私立大学に合格したというのが話題になりましたので、ご存じの方もいると察します。ここに、後輩たちの入試に資することを期待して、勉強と種々の活動に動んだことが評価されて合格した生徒たちを、一部ではありますが紹介します。



3年2組
石垣 太暉
九州工業大学
工学部

私は高校二年生の時に九州工業大学を自分の第2志望に決めました。高校二年生の二期から特に九州工業大学を意識して勉強を始め、物理と英語を中心に勉強し得意科目になりました。

高校三年生の十月に入学できるチャンスを増やすために推薦入試を受けようと思いました。私の場合、試験の二か月前から対策を始めました。推薦試験では物理と数学の口頭試問があり、口頭試問の対策では学校の先生や塾の先生を相手に黒板に問題を解いて説明をする練習がとて役に立ちました。面接の対策では、担任の先生や推薦について詳しい先生に対策をお願いしました。

本番では緊張してしまい練習通りのことはできませんでした。しかし笑顔を保ち、面接官に自分の気持ちを伝えることで合格できたと思います。

私が推薦を受けて大切だと感じたことは、推薦で合格するのを目標とするのではなく、一般人入試で合格できるように対策することです。周りの人の感謝と笑顔を忘れずに頑張ってください！！



3年7組
石原 日和
慶應義塾大学
法学部政治学科
特待生合格

私は今までの自分の経験を武器にして挑むAO入試で合格しました。

私が皆さんにお伝えしたのは入試を遠いものと思わず、どのような入試形態があるのか、またどの入試形態で自分の力を発揮することができるのかをまだ余裕のある二年生の間にしっかりとリサーチすることの重要性です。我が校で得た、空手やボランテア、異文化体験などの経験をもとに挑める入試は意外とあります。

まず、自分の学びたいことや将来の夢、志望校について身近な先生に相談するのはとても大事です。その中で自分の志望校に合格した先輩やその入試対策に長けた先生を紹介してもらえ、とてもあります。偏差値で諦めず、使える手を調べることもあります。私は私大だけでなく国立でもAO入試を取り入れている大学もあるそうです。現在は自分だけで頑張る入試対策だけでなく、周りの協力を得て挑む入試もあるということを知り、頭の片隅にでも置いておいてください。



3年6組
大城 伊織
早稲田大学
教育学部
英語英文科

沖尚で過ごした六年間で異文化交流やボランテア活動など、他の学校では経験することが出来た。

ないような体験も多くさせてもらいました。特にボランテア活動では身の回りの問題について深く考えたり、問題解決力を身につけることが出来ました。普段段々となることができないような人とお話しすることで今までになかった価値観に触れたり、人々の暖かさを感じることが出来ました。沖尚で身につけた責任感や人間力は大学に入ってから活かすことが出来ると思います。

また異文化交流においては留学生の受け入れや研修旅行での海外の学生との交流で異文化に触れる楽しさを知り、自分のコミュニケーション力を向上させるきっかけになりました。これらの経験は大学入試でも役に立ちました。

大学受験は親、担任、友人などの多くの人に支えられて乗り越えることが出来るものです。また、大学入試はどれくらい努力することが出来るかが勝負です。周りに感謝しながら努力を惜しまず、勉強面でも、自分がやりたいことでも、全力で取り組んでください！！



3年8組
神谷 悠
立教大学
観光学部

私は沖縄尚学に入学し様々な経験がすることができました。それらの経験が立教大学観光学部の合格の大きな手助けになったと思っています。その中でも、中高とティーン部で活動し、モロコシアメリカで開催された世界大会で同年代のワークショプをしたことや、東日本大震災の被災地支援活動を行ったことは貴重な経験になりました。

進路決定の際、私は自分が学びたいと考えていることを中心に出願大学を決めるようにしました。そうするといくつかの学部が可能性として見えてきたため、AO入試では失敗もありましたが、すぐに切り替えて次のチャレンジにつなげることが出来たと考えています。

そこで、後輩の皆さんへのアドバイスとして言いたいのは、自分が何を学びたいのかを常に考えておくことで進路への意識を高めていくことの大切さです。また積極的な意識を高く持つことが自分自身の可能性を広げることにつながります。最後に、周りの人への「感謝」の気持ちを忘れず、大学入学後も頑張りたいと思います。ありがとうございます。



3年9組
比嘉 桃子
千葉大学
看護学部

私は、千葉大学看護学部へ公募推薦で合格することができました。センター試験の勉強と並行しながらの対策は凄く大変でしたが周りの先生方や両親、友達の手助けや励ましのおかげで力となり、本番ではやってきた成果を十分に発揮することができました。

特に、クラス担任の百治先生には放課後も遅くまで、時に厳しい面接練習や、文章の質を高めるために小論文を何度も添削していただき、沢山お世話になりました。このような結果を出す事ができたのは、私自身の力だけでなく、多くの方が支えてくれたおかげで達成できた事だと強く実感しています。今は言葉では言い表せないくらい、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これから受験勉強をしていく中で辛い事や苦しい事が沢山あると思います。「やっておけばよかった」と後悔しないために、毎日コツコツ勉強することや、授業の復習などを怠らず、日々を大切に過ごしてほしいです。当たり前のことかもしれませんが、こうした毎日の積み重ねがきっと大きな力になるはずです。



3年7組
松島 玄武
青山学院大学
法学部

私は六月のインターハイまでサッカー部に所属し、ずっとサッカーをしていました。そのため、校内での模試の順位は半分よりも下でした。もちろんその時は自分が志望している大学に行けるなんて思っていませんでした。私が受験勉強を本格的に始めたのは部活引退後でした。しかし、当時の自分にとって一般試験本で大学を受ける自信は全くありませんでした。そのため、AO推薦の対策と同時に進んで受験勉強に取り組みました。もちろんこの二つを両立させるのは大変でした。しかし、今ではこの選択は間違っていないかと思えます。確かに勉強も大事ですが、それ以外にコミュニケーションや創造力など将来に役立つ能力を推薦対策で身につけることができたことは、大学合格まで勝ち取ることに繋がりました。

私はここで特に伝えたい。受験合格への道はひとつではありません。自分の努力次第で合格への道は広がります。そのようなチャンスを見落とさないためにも日々を大切に過ごし、悔いのない高校生活を送ってください。



3年7組
安田 祐介
中央大学
経済学部

私は中央大学経済学部指定校推薦入試で合格しました。

高校入学時、第2志望を慶応大学としていて、また、MARCHと呼ばれる五つの大学が目標のつもりでした。

その時から推薦入試も視野に入れていたので、評定を高く保つ気構えで勉強に励み部活や課外活動、ボランテア、空手などにしっかりと取り組みました。自身でもあまり怠る事なくこれらの活動ができたこと、自負しているのが、圧倒的な自信を持って推薦入試に望むことが出来ました。

この経験から、普段の勉強や活動をコツコツと積み重ねること、受験の、特に推薦入試に必要となる努力をコツと小さくできると実感しました。

将来の夢や目標はいつ決まるかわかりません。ぜひ今のうちから受験の事を考えて生活し「将来努力しないために今からコツコツと努力を積み重ねることが大事だ」と思いました。また、漠然と努力することは大変に苦しいことなので、とりあえずでもいいので目標大学を設定して欲しいです。



令和元年度 表彰者一覧 8月～1月

文化活動

第43回沖縄県高等学校文化連盟 囲碁将棋 秋季大会 将棋部門
認定戦 **敢闘賞** 下川 哲哉 (2の4)
朝崎 拓夢 (2の5)
女子団体 **3 位** 諸葛 清愛 (2の4)
名城里伊子 (2の4)
安里陽南乃 (2の6)
男子団体B **準優勝** 東内原 悠 (1の1)
仲尾次政基 (2の4)
有馬 千尋 (2の7)
男子団体A **優勝** 比嘉 航 (1の5)
下地 真宙 (2の4)
金城 智紀 (2の5)

第43回朝日アマチュア将棋名人戦沖縄県予選
S級優勝 鴨澤 阿覧 (1の1)

第8回 沖縄こどもの国将棋大会
C級 4 位 東内原 悠 (1の1)
D級優勝 豊里 輝 (1の1)
D級 3 位 寺田 優彦 (1の5)

第10回琉球銀行杯新春将棋大会
B級準優勝 比嘉 航 (1の5)
C級優勝 豊里 輝 (1の1)
C級 3 位 下地 真宙 (2の4)
D級準優勝 友利 琉雅 (1の3)

第54回全沖縄英語高等学校英語弁論大会
第2部 **優良賞 (3位)** 金 岐映 (1の9)

朝日大学第35回高等学校英語弁論大会
奨励賞 (3位) 金 岐映 (1の9)

SIBA English Festival 2019
ストーリーテリングコンテスト部門 **3 位** 比嘉 美妃 (1の9)

第31回 沖縄キリスト教学院大学・同短期大学主催 高校生英語弁論大会
Best Impromptu (**質疑応答優秀者賞**) 新里 壮吾 (1の9)

第54回全沖縄英語高等学校英語弁論大会
第1部 **1 位** 張 博瀚 (2の10)

第29回九州地区高等学校英語スピーチコンテスト **1 位** 張 博瀚 (2の10)

第48回沖縄県高等学校音楽コンテスト
ギター独奏の部 **金賞** 能登原 輝 (1の4)

那覇保護観察所 更生保護事業 **感謝状** 高校生生徒会

善行青少年 個人の部 **表彰** 島崎さくら (1の2)

第21回ショパン国際ピアノコンクールin ASIA
沖縄地区大会 高校生部門 **銅賞** 高橋 凜花 (2の4)

第31回沖縄県高等学校席上揮毫大会 **高書研会長賞** 森山さくら (1の1)

令和元年度全日本通信珠算競技大会 沖縄県大会
高校の部 団体総合 **優勝** 嘉陽司英菜 (1の4) 前田 颯二 (2の6)
玉寄 拓海 (3の1)
高校の部 個人総合 **3 位** 嘉陽司英菜 (1の4) 大城 奈々 (1の8)
岸前莉愛来 (1の9) 前田 颯二 (2の6)
2 位 玉寄 拓海 (3の1)
グローアップ賞 玉寄 拓海 (3の1) 前田 颯二 (2の6)

高校一般の部 読上暗算 **2 位** 久貝 恵真 (1の4) 大城 奈々 (1の8)
前田 颯二 (2の6) 玉寄 拓海 (3の1)

高校一般の部 読上算 **2 位** 久貝 恵真 (1の4) 大城 奈々 (1の8)
前田 颯二 (2の6)

高校一般の部 フラッシュ暗算 **2 位** 大城 奈々 (1の8)

令和元年度全日本通信珠算競技大会
高校の部 団体総合 **3 位** 嘉陽司英菜 (1の4) 前田 颯二 (2の6)
玉寄 拓海 (3の1)
高校の部 個人総合 **27 位** 玉寄 拓海 (3の1)

スポーツ活動

Summer Night Run 3時間リレー
女子の部 **3 位** ウッド 雪 (2の9) 鈴木まりん (2の9)
東 幸季 (3の12) 梅木 悠華 (3の12)
浦崎愛理彩 (3の12) 棚原 小春 (3の12)
為我井愛未 (3の12) 豊田 真菜 (3の12)
中川 友希 (3の12) 宮國 理子 (3の12)

令和元年度沖縄県高等学校新人体育大会
新体操個人・種目別 (クラブ) **3 位** 堀切 サラ (2の1)

令和元年 第二回那覇南部地区高等学校バレーボール大会
三部 **最優秀選手賞** 下地 拓未 (2の7)
三部 **優勝** 男子バレー部

令和元年 第三回那覇南部地区高等学校バレーボール大会
二部 **最優秀選手賞** 新垣 陽 (2の4)
二部 **優勝** 男子バレー部

沖縄県高等学校新人体育大会 空手道競技
男子個人組手 -61kg **3 位** 垣花 聖武 (2の5)
男子個人組手 -61kg **2 位** 国吉 展空 (1の10)
女子個人組手 -53kg **優勝** 辺土名香穂 (2の2)
女子個人組手 -59kg **1 位** 比嘉 桃子 (2の10)
女子総合 **3 位** 女子団体
女子団体組手 **優勝** 女子団体

第39回全九州高等学校空手道新人大会 南ブロック
女子個人組手 -53kg **2 位** 辺土名香穂 (2の2)
女子個人組手 -59kg **優勝** 比嘉 桃子 (2の10)

第39回全九州高等学校空手道新人大会 全九州トーナメント
女子個人組手 -59kg **優勝** 比嘉 桃子 (2の10)

令和元年度沖縄県高等学校総合体育大会 テニス競技
団体**優勝**・個人シングルス**優勝** 奥村龍太郎 (2の10)
団体**優勝**・個人シングルス**2 位**・個人ダブルス**優勝** 仲間 舜 (3の13)
団体**優勝**・個人シングルス**3 位**・個人ダブルス**2 位** 新垣 勇斗 (2の10)
団体**優勝**・個人シングルス**3 位**・個人ダブルス**優勝** 大村 駿斗 (3の2)
団体**優勝**・個人ダブルス**2 位** 桑原 太陽 (3の13)
団体**優勝**・個人シングルス**優勝** 平林 夏帆 (3の13)
団体**優勝**・個人シングルス**2 位**・個人ダブルス**2 位** 松本 祐華 (2の10)
団体**優勝**・個人ダブルス**2 位** 山本 未来 (2の10)
団体**優勝**・個人シングルス**3 位**・個人ダブルス**優勝** 高岡 鈴蘭 (2の10)
団体**優勝**・個人ダブルス**優勝** 藤永 笑子 (2の10)
団体**優勝**・個人シングルス**3 位** 倉岡 彩夏 (1の10)

第46回九州ジュニアテニス選手権大会
16歳以下男子シングルス・**優勝** 奥村龍太郎 (2の10)
17歳以下男子シングルス・**2 位** 玉城 勇稀 (1の10)
18歳以下シングルス**2 位** 高岡 鈴蘭 (2の10)
16歳以下シングルス**4 位** 伊賀上瑛穂 (1の10)

第73回毎日少年少女テニス選手権大会
18歳以下男子ダブルス・**優勝** 奥村龍太郎 (2の10)
19歳以下男子ダブルス・**優勝** 新垣 勇斗 (2の10)
18以下シングルス**2 位**・ダブルス**優勝** 松本 祐華 (2の10)
18以下シングルス**3 位**・ダブルス**2 位** 高岡 鈴蘭 (2の10)
18以下ダブルス**優勝** 山本 未来 (2の10)
18以下ダブルス**2 位** 藤永 笑子 (2の10)

令和元年度全九州高等学校体育大会
第54回全九州高等学校テニス競技大会
個人ダブルス**2 位** 山本 未来 (2の10) 松本 祐華 (2の10)
個人ダブルス**3 位** 高岡 鈴蘭 (2の10) 藤永 笑子 (2の10)

平成31年度沖縄タイムス杯
男子団体 **優勝** 柔道部
男子個人 -60kg級 **優勝** 知念 航平 (3の13)
男子個人 -73kg級 **優勝** 川畑 亜嵐 (3の13)
男子個人 -100kg級 **優勝** 金城 嘉生 (3の13)
男子個人 無差別級 **優勝** 照屋 海斗 (2の10)

沖縄県高等学校総合体育大会
男子団体 **優勝** 柔道部
男子個人 -60kg級 **優勝** 糸数未来斗 (2の10)
男子個人 -66kg級 **優勝** 大城 盛舟 (2の13)
男子個人 -73kg級 **優勝** 早川 潤 (2の10)
男子個人 -81kg級 **優勝** 岸良 武輝 (2の10)
男子個人 -90kg級 **優勝** 山里 健太 (3の13)
男子個人 -100kg級 **優勝** 金城 嘉生 (3の13)
男子個人 +100kg超級 **優勝** 屋田 継心 (3の13)

全九州高等学校柔道大会
男子個人 -60kg級 **3 位** 糸数未来斗 (2の10)
男子個人 +100kg超級 **準優勝** 屋田 継心 (3の13)

全国高等学校総合体育大会
男子個人 -90kg級 **3 位** 山里 健太 (3の13)